R4.9.15　日本学術会議　自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会

コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築

～公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり～

富山大学客員教授・京都大学非常勤講師
日本政策投資銀行特任顧問　森　雅志

富山市を取り巻く課題

① 人口減少と超高齢社会

② 過度な自動車依存による公共交通の衰退

③ 中心市街地の魅力喪失

④ 割高な都市管理の行政コスト

⑤ CO2排出量の増大

⑥ 市町村合併による類似公共施設

⑦ 社会資本の適切な維持管理

⑧ 平均寿命と健康寿命の乖離

富山市のまちづくりの基本方針　～コンパクトなまちづくり～

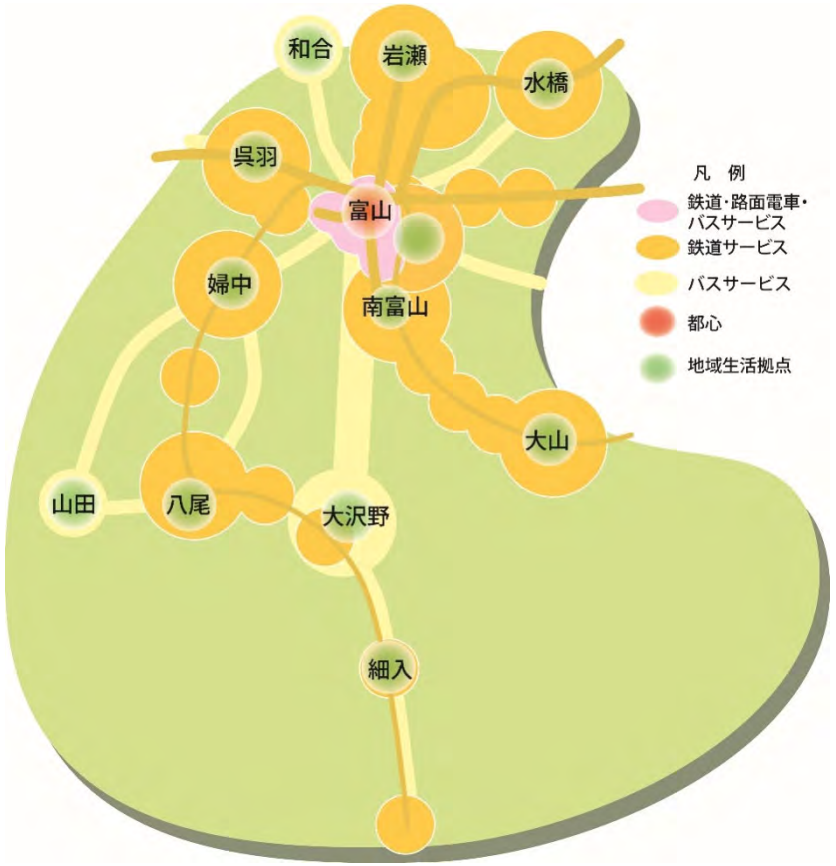
鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

＜概念図＞

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串　：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子：串で結ばれた徒歩圏



＜実現するための３本柱＞

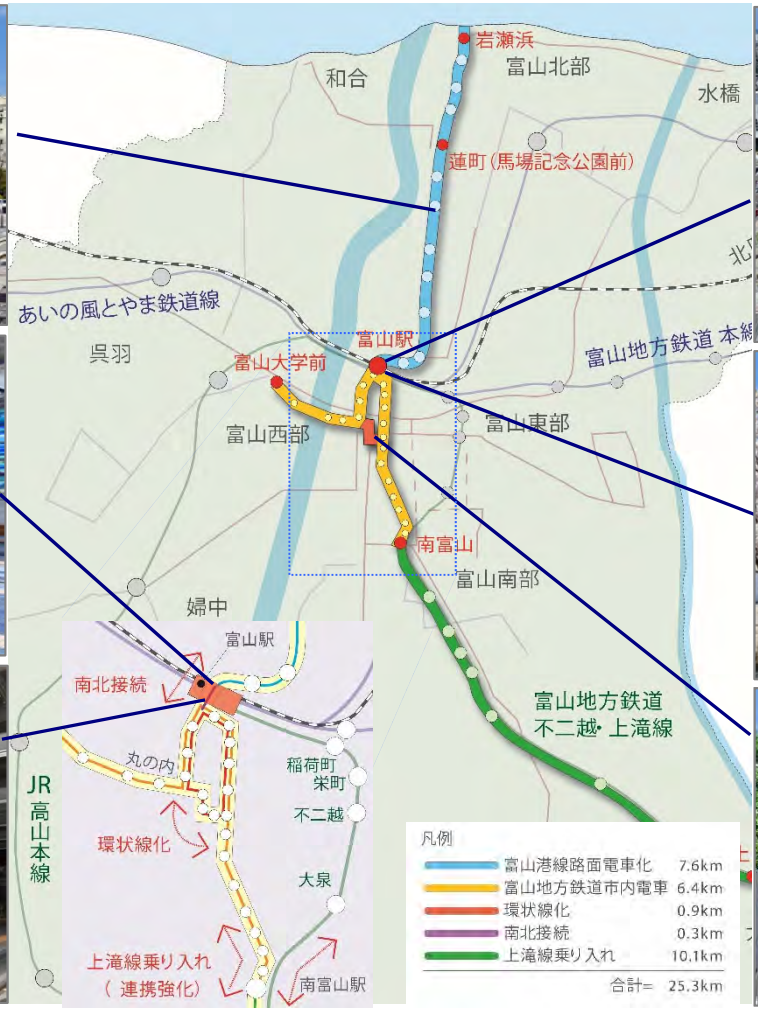
①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住推進

③中心市街地の活性化

公共交通の活性化　～LRTネットワークの形成～

LRTネットワークの形成により、過度に車に依存した
ライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちを実現



富山ライトレールの整備 ～JR富山港線のLRT化～

利用者の減少が続いていたJR富山港線（鉄道）を公設民営の考え方を導入し、日本初の本格的LRTシステムに蘇らせた取り組み

＜路線概要＞

- ○開業日 ： 平成18年4月29日
- ○延業長 ： 7.6km
  （鉄道区間6.5km、軌道区間1.1km）
- ○電停数 ： 13
- ○車両数 ： 7編成（2両1編成）
- ○所要時間 ： 約25分（富山駅北－岩瀬浜）

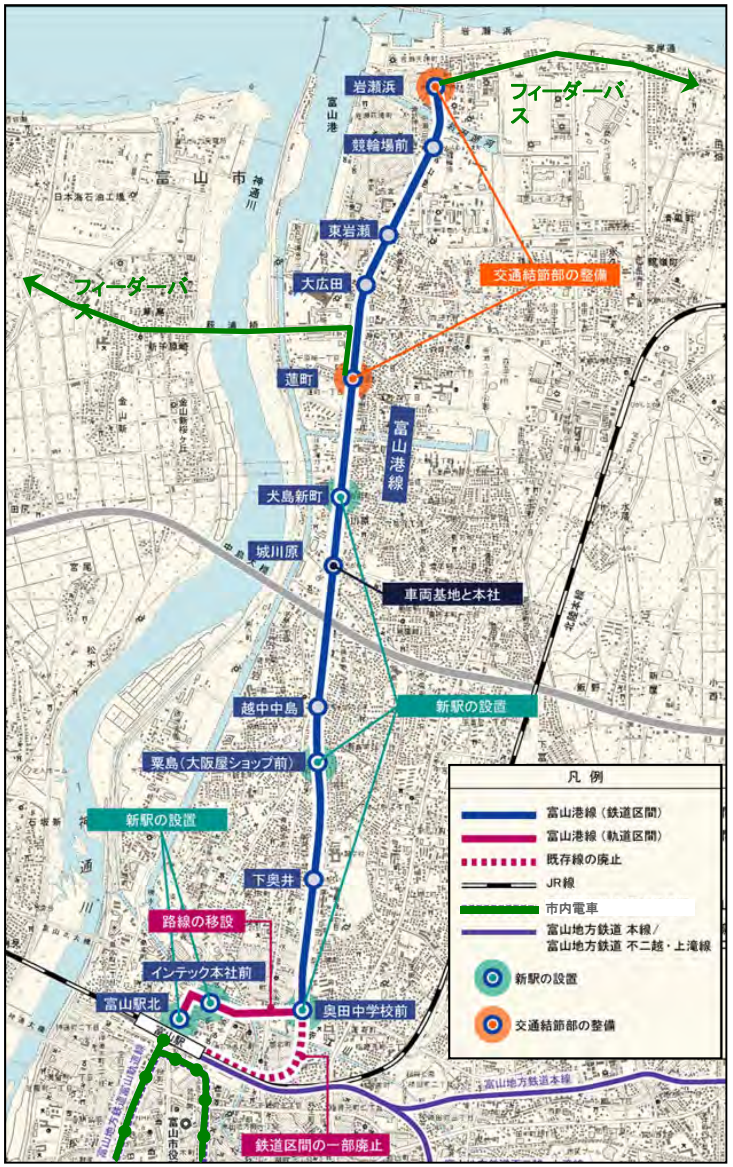
＜運行サービスの向上等＞

運行間隔の改善、新駅の設置、低床車両の導入、
バリアフリー化、ICカードの採用、アテンダントの配置　等

日本初の本格的LRTとして再生

▲旧JR富山港線

▲富山ライトレール
（愛称ポートラム）



市内電車環状線化事業 ～セントラムの整備～

中心市街地活性化と都心地区の回遊性の強化を目的に、市内電車を一部延伸

・日本初の**上下分離方式**の導入

・魅力ある**都市景観**の構築に向けた道路空間との一体的な整備

＜路線概要＞

○開業日　：平成21年12月23日
○延　長　：約0.9km（環状線区間約3.4km）
○電　停　：延伸区間に3箇所新設
○車　両　：新型低床車両を3編成導入

▲市内電車環状線（愛称：セントラム）

総合交通結節点としての富山駅

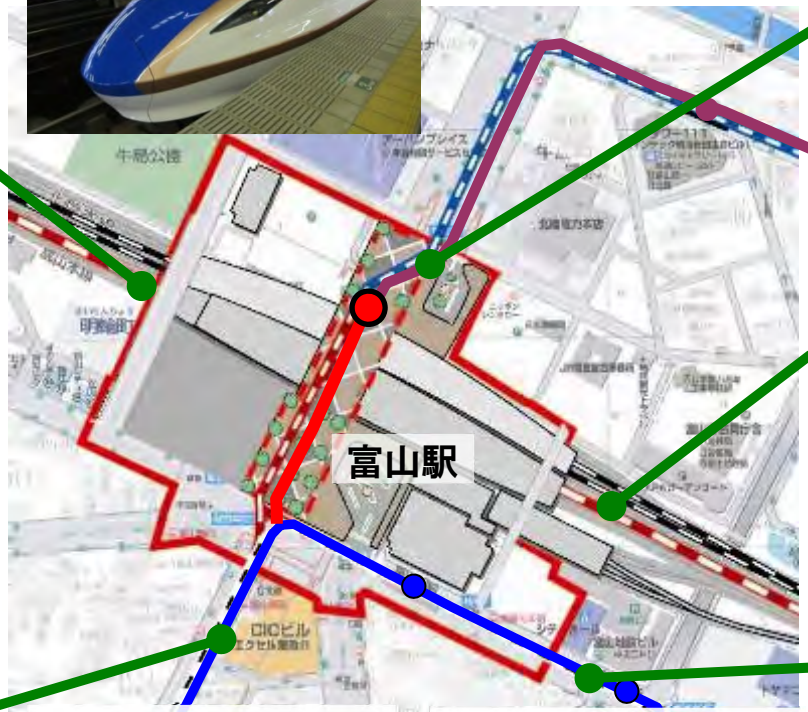
観光客や高齢者など誰もが快適に利用できる、多様な地域交通網

あいの風鉄道、高山本線

北陸新幹線
（H27.3.14日 開業）

富山ライトレール（ポートラム）

路線バス



富山地方鉄道鉄道線

市内電車環状線（セントラム）

アヴィレ

タクシー

市内電車（サントラム）

路面電車南北接続事業　～利便性の高い停留場整備～

新幹線高架下（新幹線改札口の前）に路面電車停留場を設置（全国初）

＜高架下停留場＞

- 新幹線改札口との距離はわずか約38m
  （目の前に路面電車が見える）
- 雨や雪を気にせず乗換が可能
- 改札口等から、フラットな移動

⇒乗継利便性の大幅な向上

都心地区・公共交通沿線居住推進地区の設定と居住人口の目標

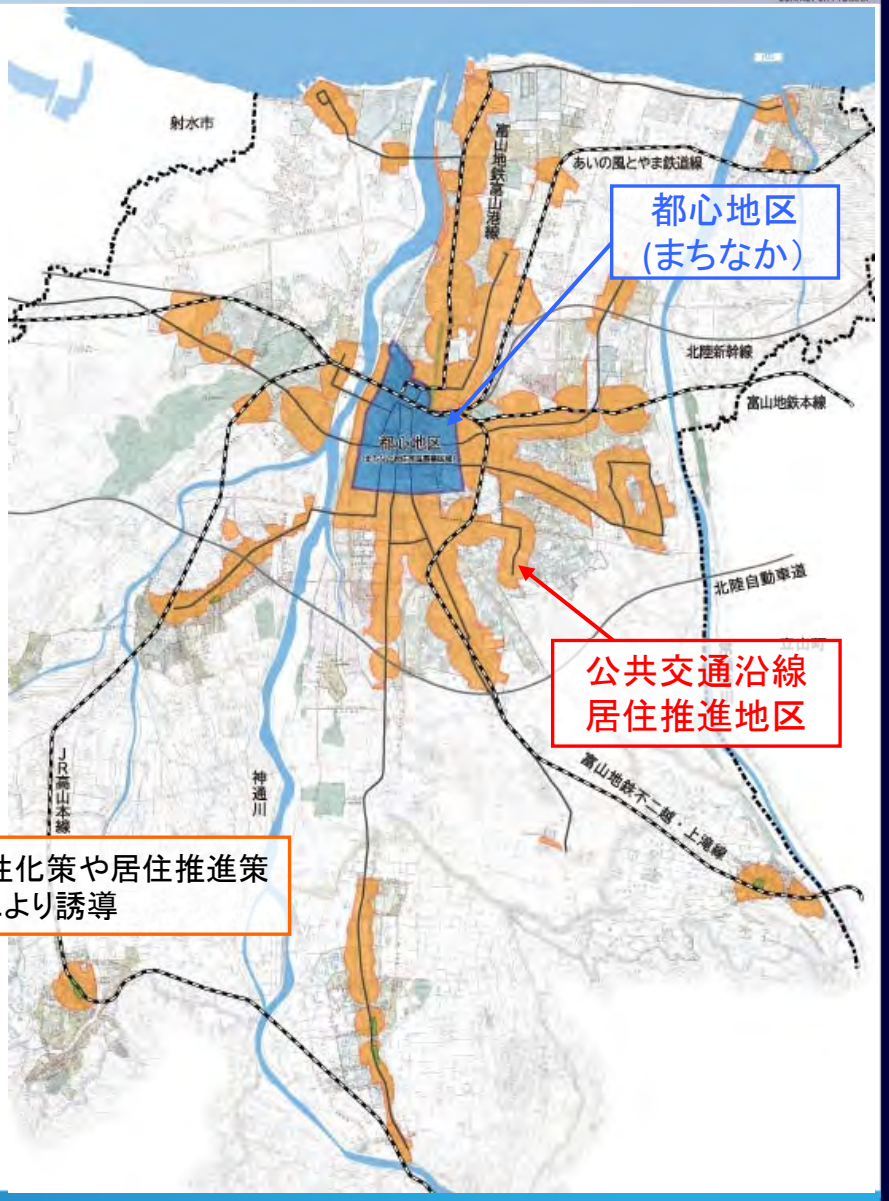
都心地区・公共交通沿線居住推進地区の設定

- 都心地区：約４３６ ha
- 公共交通沿線居住推進地区：約3,５１７ha

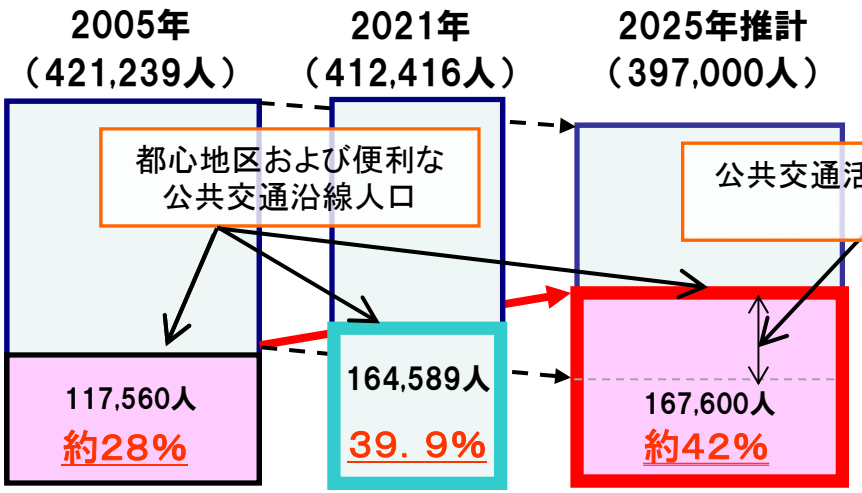
※富山駅を中心とした１９の公共交通軸周辺

- 鉄道、軌道駅勢圏（半径500m）
- バス停圏（半径 300m）

都心地区及び公共交通沿線居住推進ゾーンでは、良質な住宅の建設事業者や住宅建設や購入する市民に対して助成



＜便利な公共交通沿線における居住人口の目標＞



グランドプラザの整備

平成19年9月オープン

積雪寒冷地の気候にも配慮し、賑わいの核となる全天候型の多目的広場を整備

年間86.3%（休日：100%、平日：79.7%）がイベント等で利用されている。（平成28年度実績）

・**事業主体**
富山市

・**工事期間**
H18.5～H19.8

・**事業費**
約15.2億円

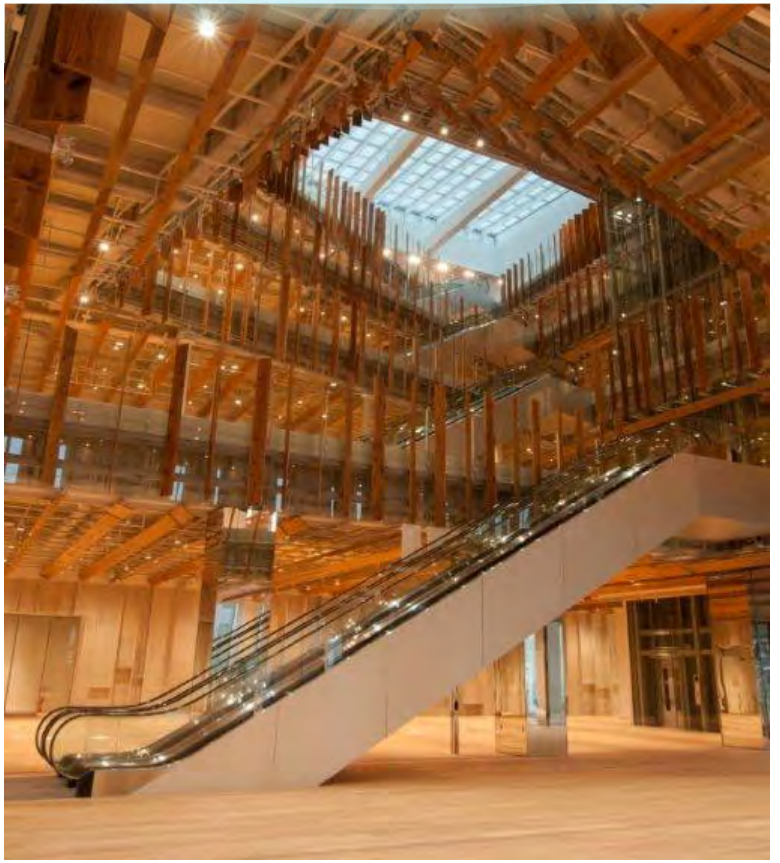
・**施設概要**
施設面積：
約1,400㎡
（65m×21m）
天井までの高さ：
約19m
大型映像装置：
約277インチ

TOYAMAキラリ（ガラス美術館・図書館複合施設）　（平成27年8月22日開館）

中心市街地にガラス美術館と市立図書館等が入る複合施設を整備

繊細な陰影や透明感をもたせた
街に開かれたファサード

県産の木材等、自然素材を用いることで、
ぬくもりを感じるスパイラルパサージュ

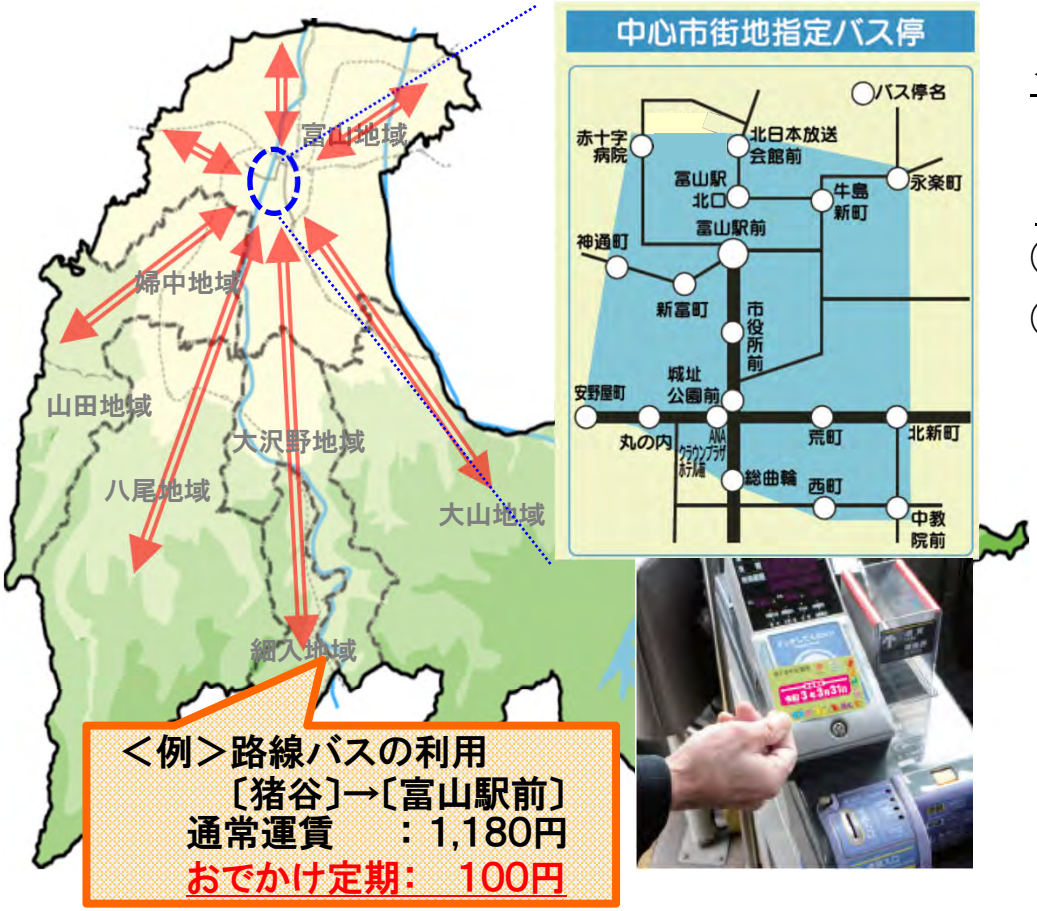


TOYAMAキラリ公益施設　開館時からの来館者数　474．6万人（令和4年3月31日現在）

おでかけ定期券事業

交通事業者と連携し、富山市内在住の65歳以上の高齢者を対象に**市内各地から中心市街地へ出かける際に公共交通機関を1乗車100円**で利用できる制度を実施
高齢者の**約24%**がおでかけ定期券を所有し、**1日あたり約2,750回、約1,400人**が利用
（H29～R元年度平均）

高齢者の外出機会の創出、中心市街地の活性化、公共交通の維持・活性化に寄与



＜例＞路線バスの利用
〔猪谷〕→〔富山駅前〕
通常運賃　：1,180円
おでかけ定期：　100円

＜おでかけ定期券の申込み＞
65歳以上の方、利用者負担金1,000円

＜おでかけ定期券の利用＞
①利用時間帯：午前9時～午後5時
②利用区間

〔路線バス〕（H16. 5～）

富山市内各地	⇔	中心市街地等の区間
中心市街地等	⇔	中心市街地等の区間
富山市内各地	⇔	富山市民病院の区間

〔地鉄電車〕（H20. 4～）

富山市内各駅	⇔	電鉄富山駅 南富山駅

〔市内電車・富山港線・環状線〕（H23. 4～）
〔フィーダーバス〕（H23. 4～）
〔まいどはやバス〕（R3. 4～）

中心市街地において活発化する民間投資

公共投資が呼び水となり市街地再開発事業など民間投資が活発化

総曲輪レガートスクエア
医療・福祉施設、専門学校等
H29.4 完成

ユウタウン総曲輪
総曲輪西地区
商業、宿泊、駐車場、居住
H28.6 完成

WAKURUSOGAWA
総曲輪三丁目地区
居住、商業、業務、駐車場
R1.5 完成

中町（西町北）電停
H25.5.17 開業

西町北・総曲輪地区
市街地再開発準備組合
H27.8 設立

中央通りD北地区
H30.9 都市計画決定

ルシーダタワー（125戸）
中央通りｆ地区
居住、商業、業務、駐車場
H24.9 完成

シティハウス富山西町（96戸）　H19.2 完成
堤町通り一丁目地区　商業、分譲住宅

プレミスト総曲輪（52戸）
総曲輪四丁目・旅籠町地区
居住、商業、業務、駐車場
H22.2 完成

総曲輪FERIO
総曲輪通り南地区
商業
H19.8 完成

グランドプラザ
まちなか広場
H19.8 完成

西町・総曲輪CUBY
西町・総曲輪地区
駐車場、駐輪場、商業
H17.3 完成

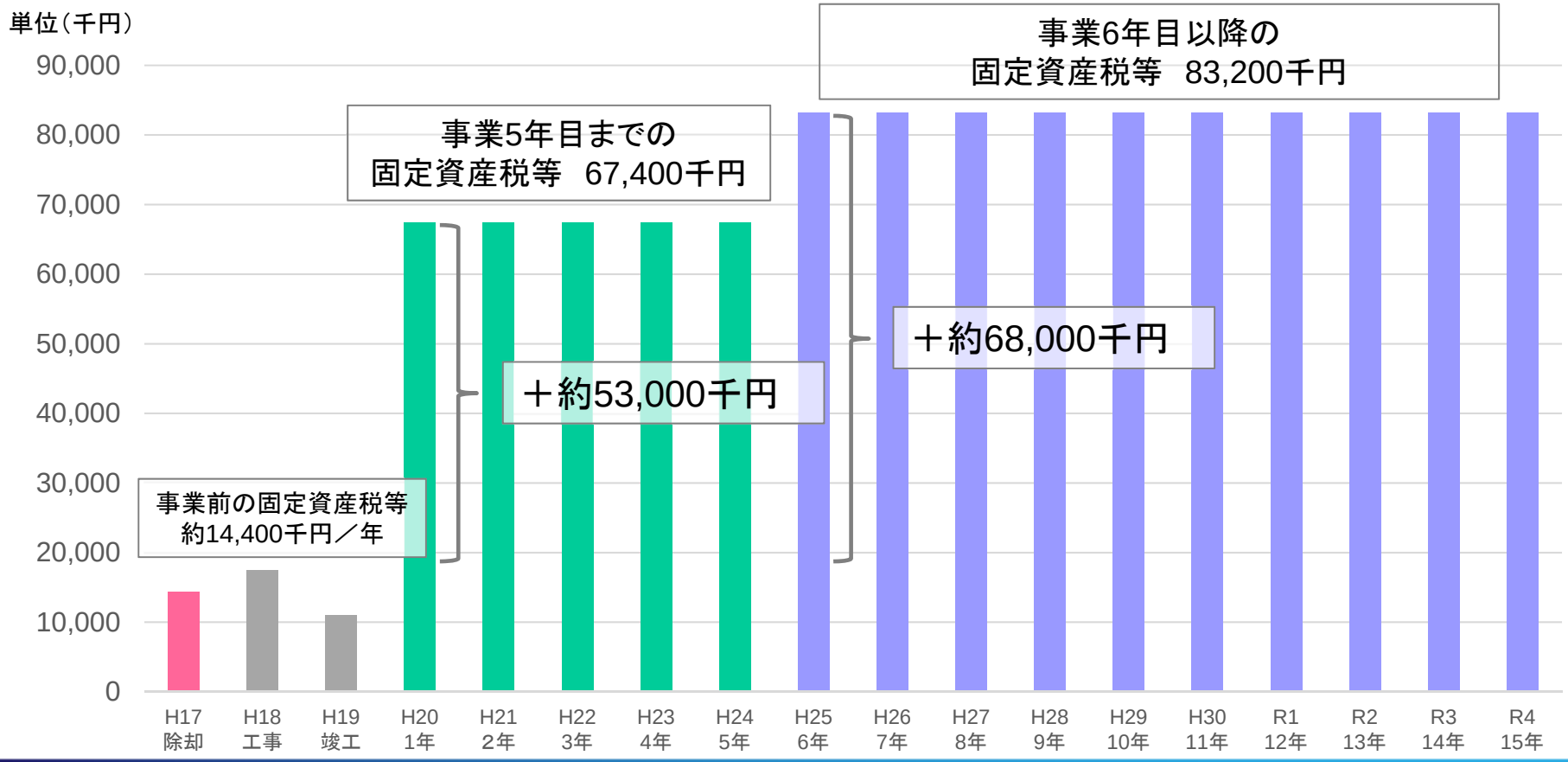
ＴＯＹＡＭＡキラリ
西町南地区
業務、公益施設
H27.4 完成

プレミスト西町（40戸）
西町プレミア（88戸）
西町東南地区
居住、商業、駐車場
H24.9 完成

再開発事業は将来への投資　総曲輪フェリオの例

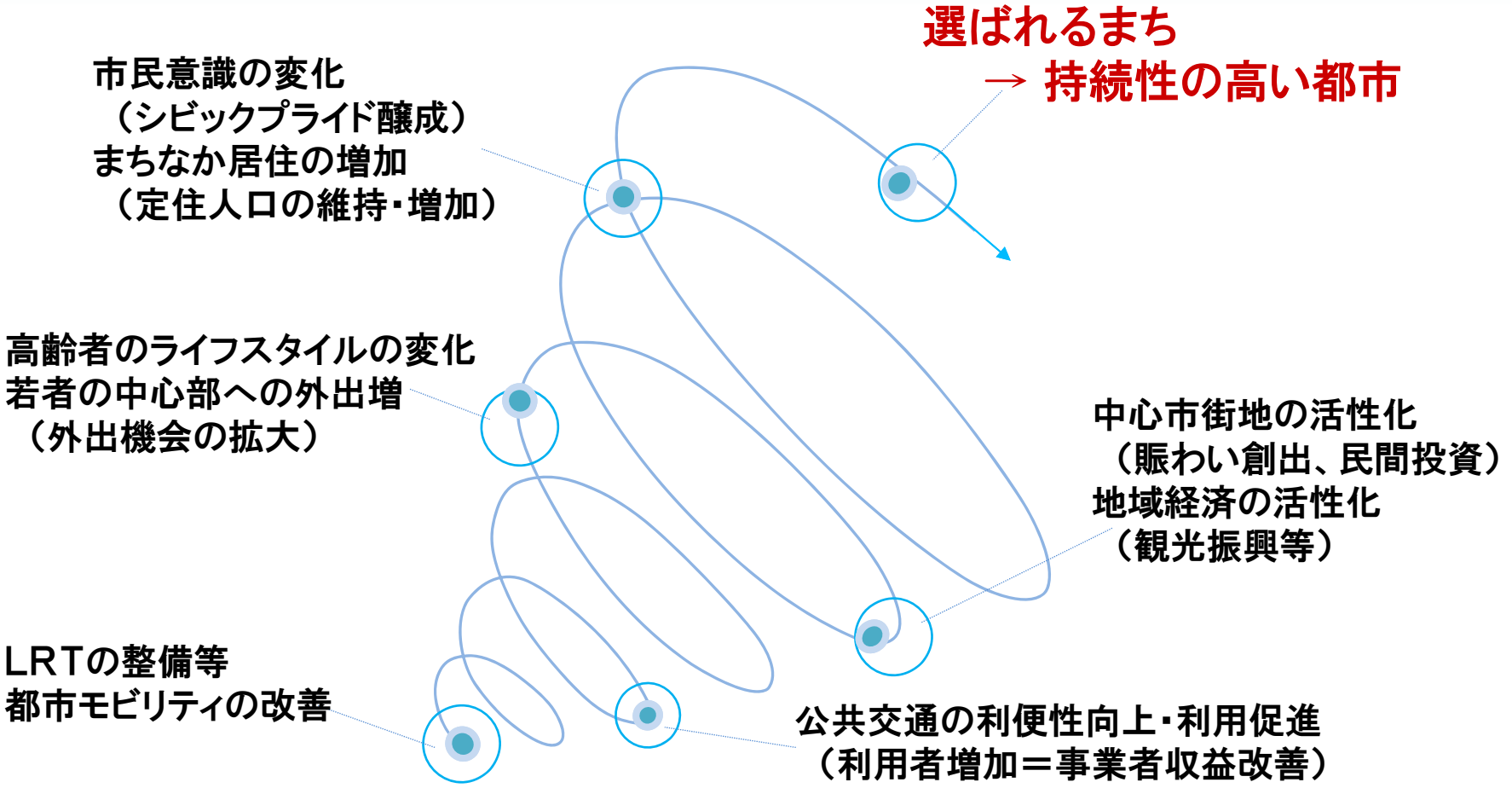
投資費用を回収したうえで、さらに将来市民への収入となる。

事業完了後の固定資産税等の増収分で、市補助金888,200千円は15年目で回収できる。その後、毎年約68,800千円ずつ税収増となる。



コンパクトなまちづくりにおけるLRTの整備効果

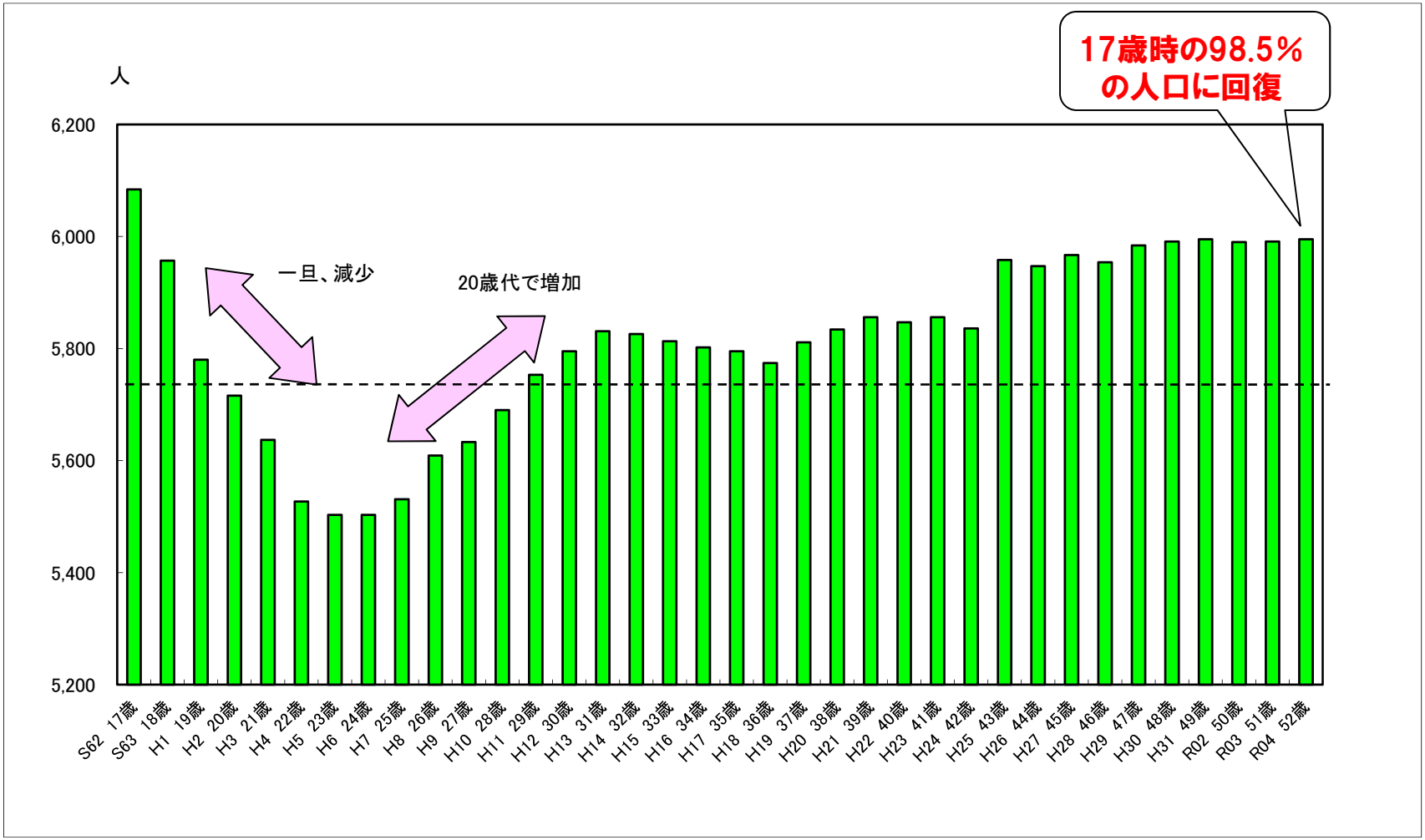
「正のスパイラル」が生まれ、「まち」や「ひと」に
プラスの影響や変化をもたらしている



コンパクトなまちづくりの効果

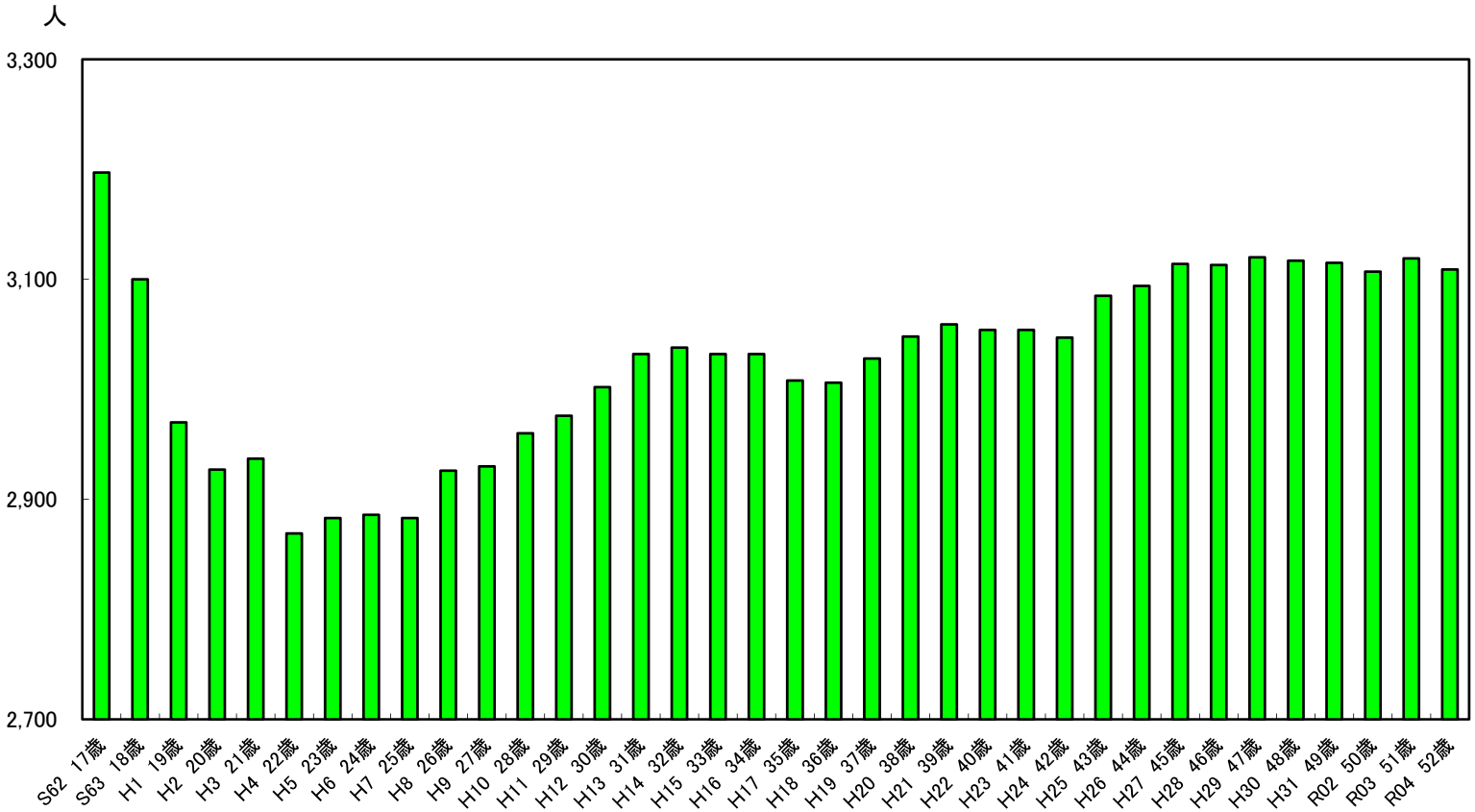
コンパクトなまちづくりの効果　～人口の回復～

同一年齢人口の経過(男女計）（1969.4.2～1970.4.1生）



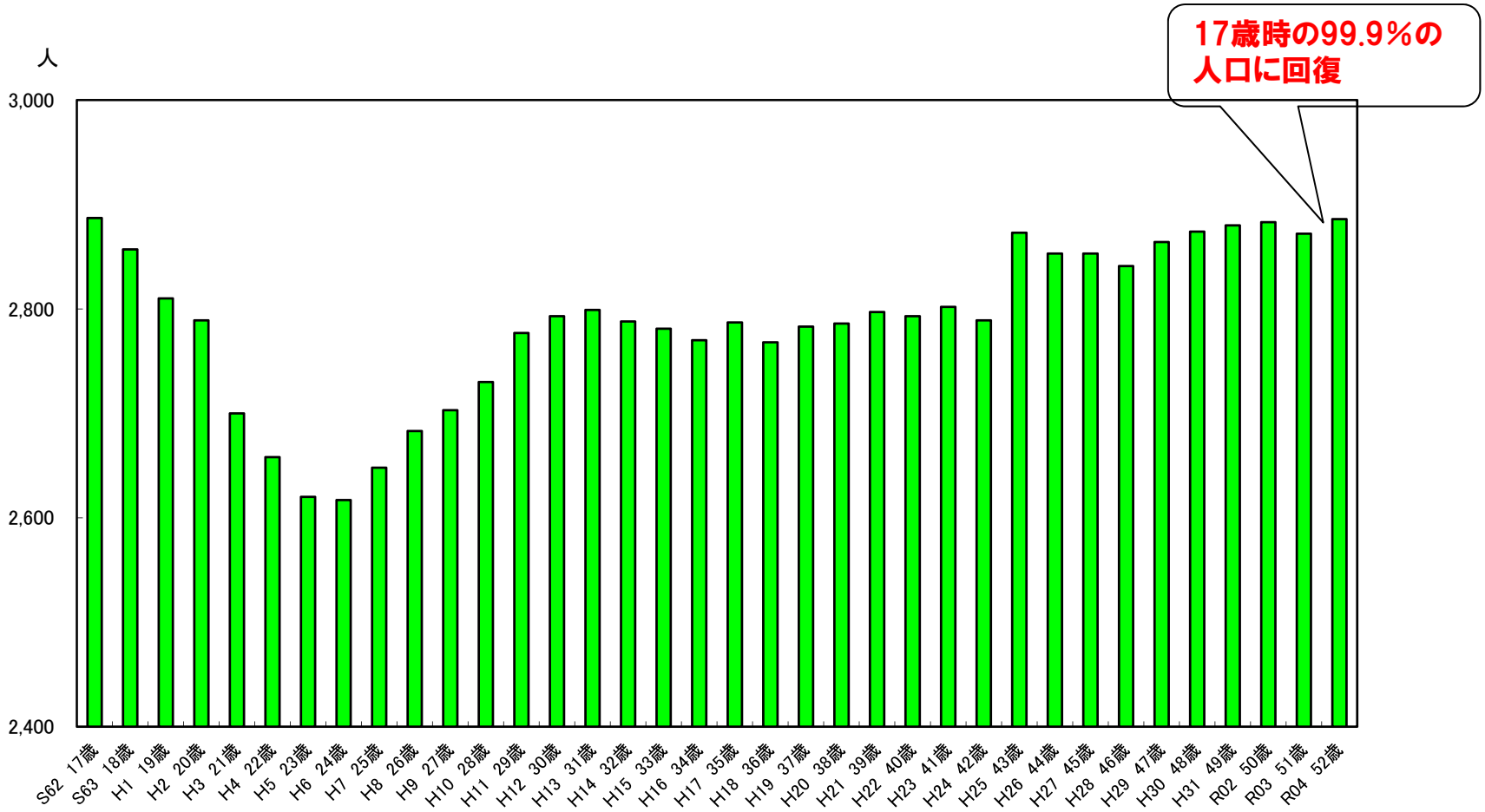
コンパクトなまちづくりの効果　～人口の回復～

同一年齢人口の経過（男）（1969.4.2～1970.4.1生）



コンパクトなまちづくりの効果　　～人口の回復～

同一年齢人口の経過（女）（1969.4.2～1970.4.1生）



コンパクトなまちづくりの効果　～人口の維持力～

1. 富山市の総人口は、日本及び富山県全体と同様に減少傾向にある。
2. 富山市は、高齢化に伴う自然減（出生-死亡）により、総人口は減少しているが社会増減（転入-転出）では、近年は転入超過基調となっている。
3. 富山市の人口減少率は、富山県全体と比較すると鈍化している。

【人口増減等の比較（令和2年1月1日～令和2年12月31日までの1年間】

	人口（人）R3.1.1	増減数（人）	増減率（%）
全国（日本）	126,654,244	▲483,789	▲0.38
富山県	1,047,713	▲8,286	▲0.78
富山市	414,102	▲1,663	▲0.40
富山市以外	633,611	▲6,623	▲1.03

【富山市の人口動態（令和2年1月1日～令和2年12月31日までの1年間】

出生（人）	死亡（人）	転入等（人）	転出等（人）	合計（人）
2,835	4,711	10,947	10,734	▲1,663

1,876人の自然減　　213人の社会増（転入超過）

○出典　総務省：住民基本台帳に基づく人口動態調査（R3.8.4発表）　※外国人を含む

コンパクトなまちづくりの効果　～県外からの転入増～

	人口	出生	死亡	自然増減	転入			転出			社会増減	うち、県内増減	うち、県外増減
					計	県内から	県外から	計	県内へ	県外へ			
平成22年	417,734	3,499	4,235	▲ 736	9,969	3,079	6,890	9,387	2,571	6,816	582	508	74
平成23年	417,108	3,352	4,285	▲ 933	9,770	2,982	6,788	9,479	2,494	6,985	291	488	▲ 197
平成24年	421,963	3,356	4,396	▲ 1,040	10,786	3,176	7,610	9,790	2,591	7,199	996	585	411
平成25年	420,434	3,287	4,485	▲ 1,198	10,897	3,168	7,729	10,564	2,865	7,699	333	303	30
平成26年	419,849	3,265	4,500	▲ 1,235	11,187	3,160	8,027	10,044	2,675	7,369	1,143	485	658
平成27年	419,123	3,322	4,564	▲ 1,242	11,537	3,104	8,433	10,477	2,770	7,707	1,060	334	726
平成28年	418,304	3,267	4,647	▲ 1,380	11,470	3,072	8,398	10,556	2,748	7,808	914	324	590
平成29年	418,045	3,142	4,754	▲ 1,612	12,707	3,234	9,473	10,984	2,878	8,106	1,723	356	1,367
平成30年	417,234	3,089	4,664	▲ 1,575	12,726	3,093	9,633	11,429	3,028	8,401	1,297	65	1,232
令和元年	415,765	3,014	4,792	▲ 1,778	12,944	3,392	9,552	12,130	2,898	9,232	814	494	320
令和2年	414,102	2,835	4,711	▲ 1,876	10,826	3,197	7,629	10,252	2,656	7,596	574	541	33
令和3年	411,222	2,674	5,033	▲ 2,359	10,342	3,030	7,262	10,604	2,677	7,927	▲ 262	353	▲ 665

〇出典　住民基本台帳（富山市統計書より）　各年12月末時点、増減は1月～12月の計

※外国人を含む（住民基本台帳法の改正によりH24.7から外国人を追加）　※職権消除、転出取消、帰化、回復などを除く

コンパクトなまちづくりの効果　～地価調査(R3年7月1日)結果～

■県全体の地価平均は、**平成5年以降(29年連続)下落　平均▲0.5%(全用途平均)**
■富山市では、**8年連続で地価(全用途平均)が上昇**
■富山市全体では**平均+0.2%(前年比)上昇**
■商業地は**富山駅周辺や環状線沿線を中心に11地点**で上昇
■住宅地は**市内10地点で上昇**

＜上昇の要因＞

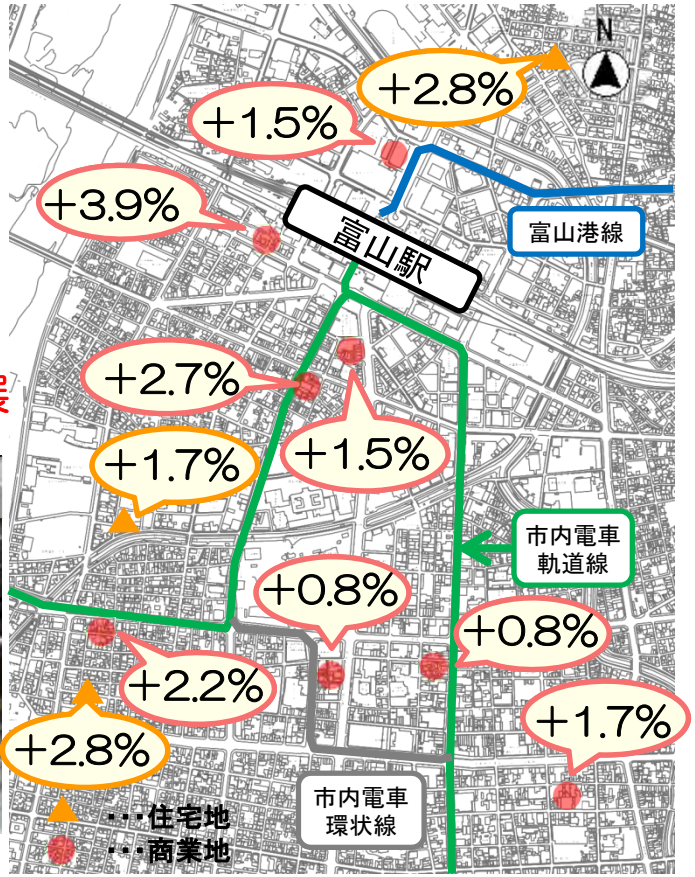
- 商業地：南北接続による環状線などの利便性向上、民間による再開発やホテル、商業施設の建設
- 住宅地：富山駅周辺整備や南北接続による利便性の向上、中心市街地周辺での居住環境や利便性の向上、まちなか居住・公共交通沿線居住推進政策の進展

市内電車沿線区間

富山駅高架下LRT空間

[参考] 地価公示(R3年1月1日)で、全用途平均の基準地価を堅持(R2まで6年連続で上昇)

（令和３年地価調査より）
※地価調査（県調査、基準日：７月1日）
調査地点数（市内８８地点）



【地価が上昇した地点】

固定資産税・都市計画税の推移（H24－R4比較）

平成24年度と令和4年度の税額(※1)を比較すると、中心市街地エリアでは、**11．9%増えている**。
市域全体では、**12．9%増えている**。

中心市街地

（単位：千円）

	固定資産税	都市計画税	合計
平成24年度	4,782,978	920,163	5,703,141
平成25年度	4,817,768	926,070	5,743,838
平成26年度	4,839,661	929,845	5,769,506
平成27年度	4,774,427	918,832	5,693,259
平成28年度	4,873,546	1,123,964	5,997,510
平成29年度	4,949,822	1,140,571	6,090,393
平成30年度	4,927,487	1,137,301	6,064,788
平成31年度	5,006,811	1,155,561	6,162,372
令和2年度	5,130,253	1,182,727	6,312,980
令和3年度(※2)	4,880,926	1,128,938	6,009,864
令和4年度	5,185,915	1,197,418	6,383,333
差し引き（R4-H24）	402,937	277,255	680,192
率（%）（R4/H24）	108.4%	130.1%	**111.9%**

(※1)4月当初の課税標準額に税率を掛け算出した額（免税点未満や減免等を含む）

市域全体

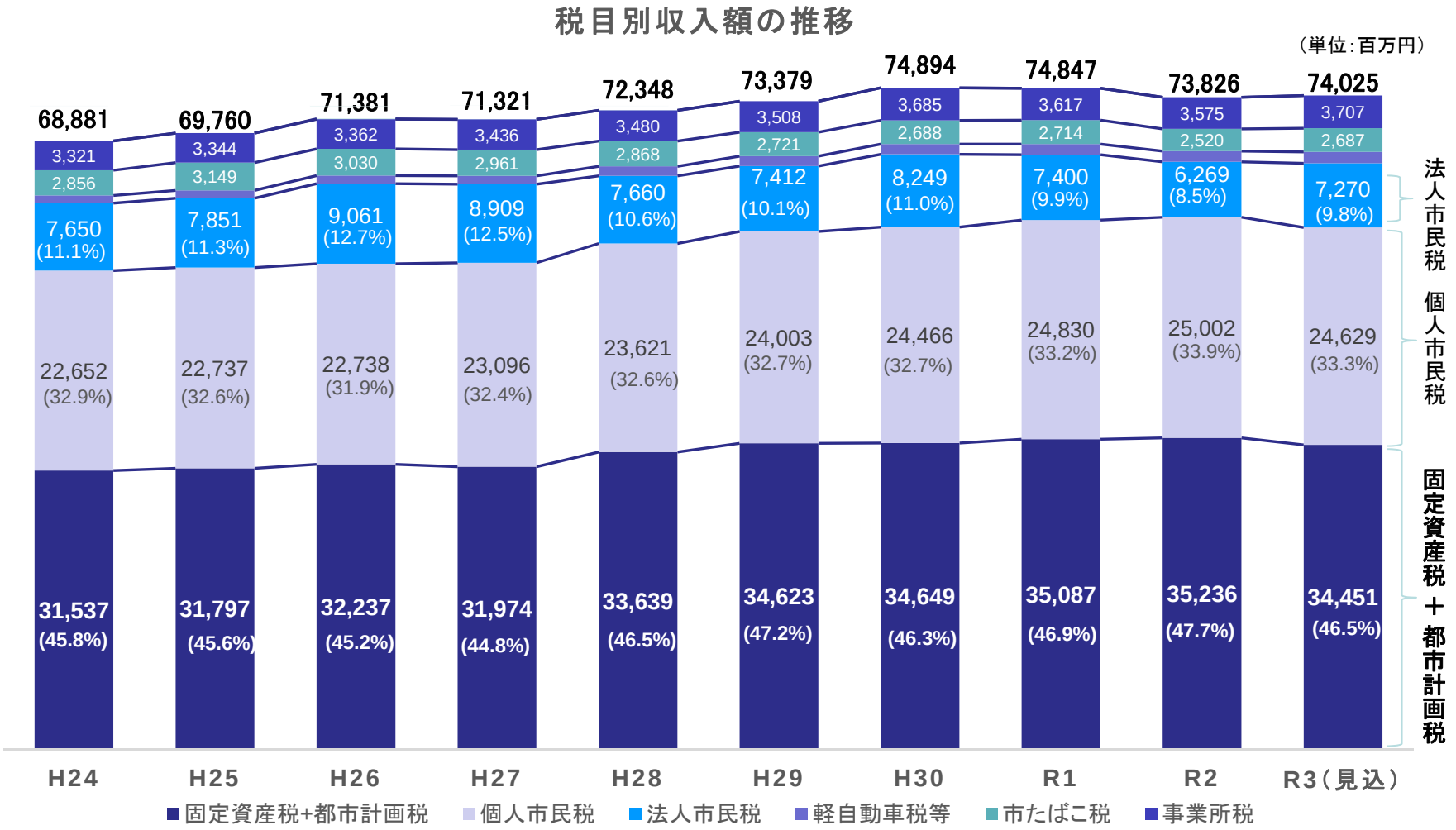
（単位：千円）

	固定資産税（償却資産含む）	都市計画税	合計
平成24年度	28,728,653	3,165,910	31,894,563
平成25年度	29,003,963	3,198,231	32,202,194
平成26年度	29,317,127	3,244,354	32,561,481
平成27年度	29,069,634	3,206,402	32,276,036
平成28年度	30,048,113	3,913,318	33,961,431
平成29年度	31,012,591	3,981,281	34,993,872
平成30年度	31,056,581	3,961,534	35,018,115
平成31年度	31,537,809	4,033,186	35,570,995
令和2年度	31,885,590	4,116,466	36,002,056
令和3年度(※2)	31,375,152	4,068,484	35,443,636
令和4年度	31,860,561	4,150,588	36,011,149
差し引き（R4-H24）	3,131,908	984,678	4,116,586
率（%）（R4/H24）	110.9%	131.1%	**112.9%**

(※2)新型コロナウイルス感染症緊急経済対策（中小事業者等に対する軽減措置)適用後の額

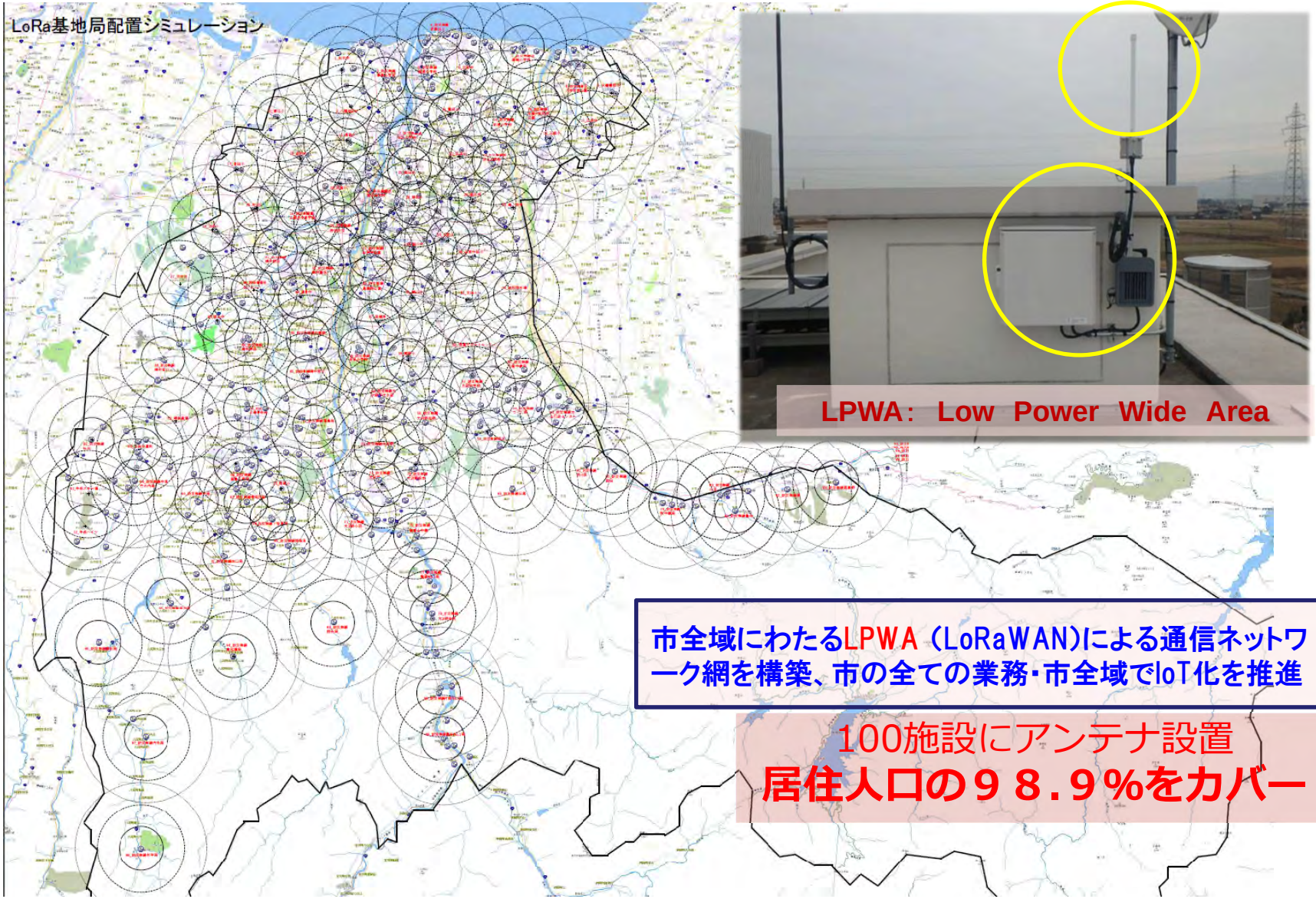
市税収入の税目別割合の推移

市税収入の中で基幹的な収入である固定資産税や都市計画税は、景気に左右されにくいため、**他の税目と比較して変動が少ない**



富山市版スマートシティの取組み

富山市センサーネットワークアンテナ配置図



LPWA：Low Power Wide Area

市全域にわたるLPWA（LoRaWAN）による通信ネットワーク網を構築、市の全ての業務・市全域でIoT化を推進

100施設にアンテナ設置

居住人口の９８.９%をカバー

富山市センサーネットワーク利活用例（イメージ）

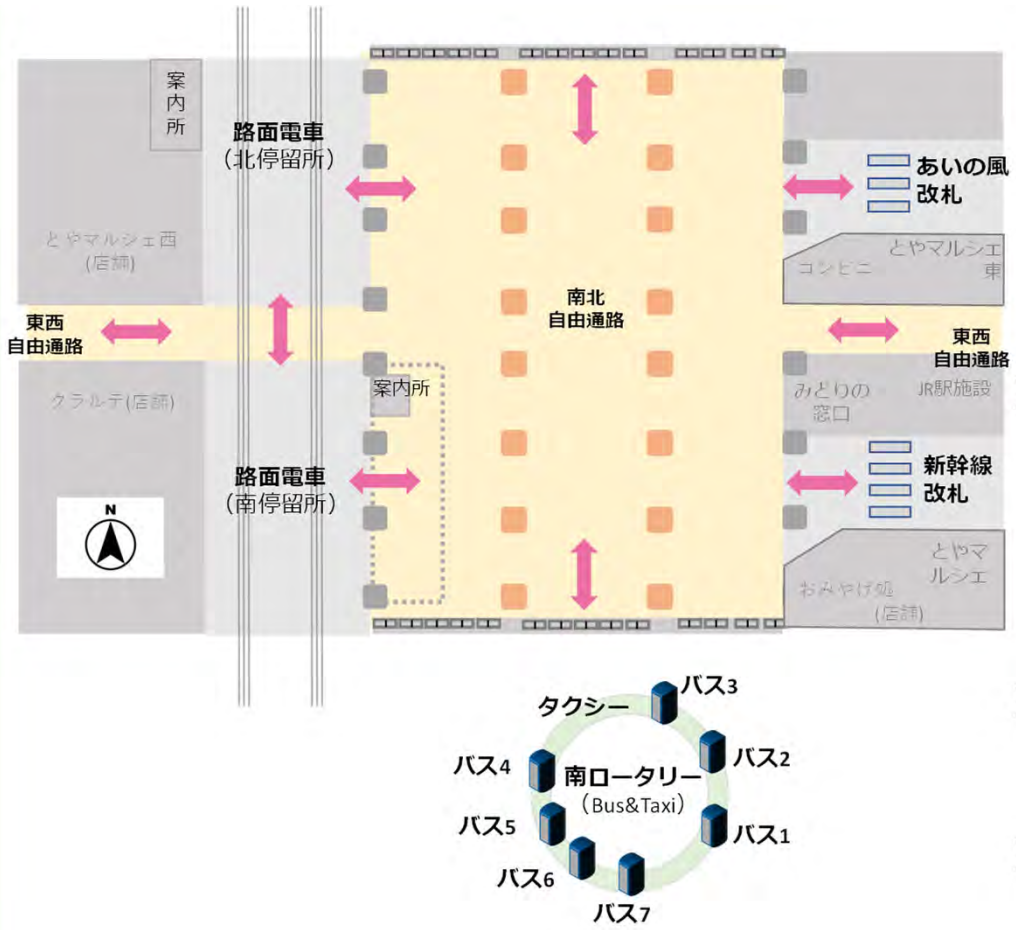
今回構築したIoTプラットフォームへ集約された各種センサーからの情報を、個人情報等に十分配慮した上で積極的に公開していくことで、データの相互利用による新しいサービスの展開など、スマートシティの更なる発展を目指します。

民間向け実証実験公募事業　（代表事例１）（継続）

（２）「リアルタイム人流データによる安心・安全な移動を支援するサービスの開発」

代表事業者：関西電力㈱

富山駅構内



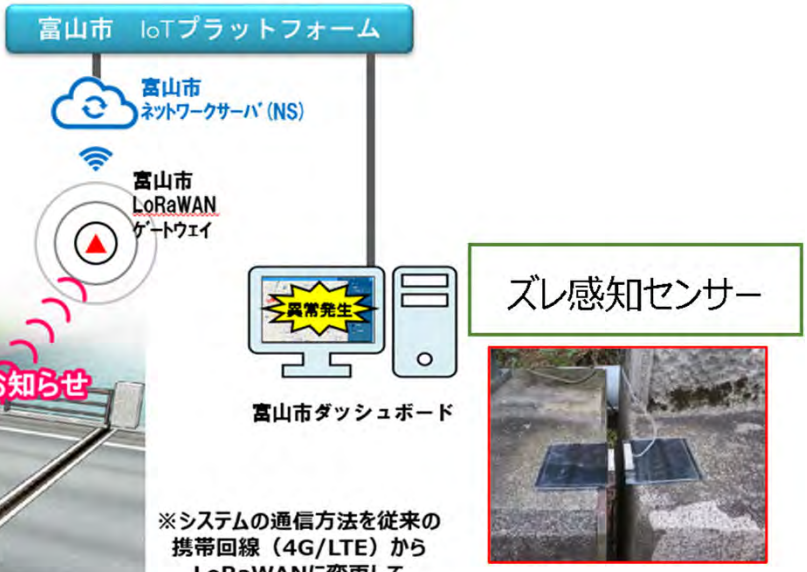
- 次の課題を解決するために基礎データとなる人流情報の見える化を実施。
  - 公共交通機関の活用促進
  - 中心市街地の活性化
  - 人と環境に優しい街づくり
  - ポストコロナ社会における安心安全
- 収集したデータ等、公共交通に関する政策提案、マーケティング、店舗出店計画など複数用途で利活用。
- 市民に提供するCOVID-19情報として人流データの活用の在り方を検証。

民間向け実証実験公募事業　（代表事例２）（継続）

（３）「橋梁の桁端異常検知システムにおける通知機能に関する検証」代表事業者：日本工営㈱

■モニタリングシステム全体のイメージ

本モニタリングシステムは、
橋梁の桁端部での異常が発生したときに、
◆**LED表示灯を点滅させることにより現地で利用者に警告する**
◆**異常を検知したことをネットワークを介して管理者にお知らせする**
システムである。



※システムの通信方法を従来の携帯回線（4G/LTE）からLoRaWANに変更してシステム構築した。

【結果】

橋りょうの桁端部に開きや段差等の異常が発生した際に、LED 表示灯による現地での警告および管理者の PC 画面での遠隔状態監視ができるシステムを構築した←職員巡回の省力化、迅速な一次対応を期待。

【課題・展望】

LED 表示灯を設置するためには、バッテリでは電力不足（街路灯電源や太陽電池等の導入を検討）。

管理者へのメール通知機能等を付加する必要がある（メール発報用システムの導入により実現）。

行政業務での利活用（事例１）「河川水位監視システム」

◆ R1、R2、R3年度、市実証実験事業「河川水位監視システム構築業務」
・目的：市民に自助・共助を促すため、センサーNWを活用した河川水位監視システムを構築し、市民に水位の情報提供を行うもの。
・実施：水位計設置６か所（４箇所（R2）、2箇所追加（R3））

概　要

R1年度事業

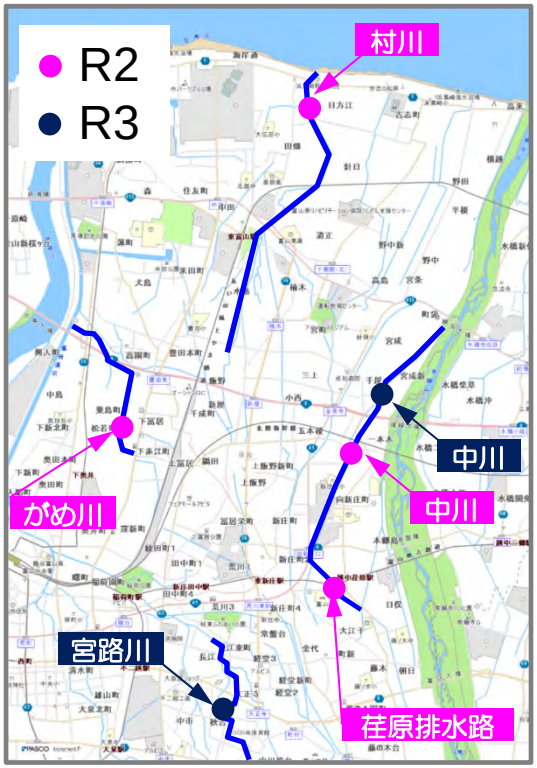
水位計の設置
（R2、R3）

富山市
センサーNW

Web公開サイト

Toyama Smart City Square
富山市情報公開サイト

設　置　箇　所



- ✓ 準用河川などに水位計を設置して水位を観測
- ✓ 観測データはweb上で市民に公開（R3.4.1公開）
- ✓ 市民に浸水に備えた自助・共助を促す

富山市ライフライン共通プラットフォーム事業概要

共通プラットフォーム（公開型GIS）

富山市

全庁型GIS

公開型GIS

基図情報

各社資産情報

道路陥没情報等

工事予定情報

通行制限情報

通知アプリ

市　民　等

富山市道路管理者

富山市ライフライン共通プラットフォーム協議会

電力	北陸電力株式会社富山送配電支社
通信	西日本電信電話株式会社富山支店
	株式会社ケーブルテレビ富山
	上婦負ケーブルテレビ株式会社
ガス	日本海ガス株式会社
交通	富山地方鉄道株式会社
	富山ライトレール株式会社
行政	富山県
	富山市

道路占用申請システム

事業者

通行制限情報

Toyama Smart City Square 表示イメージ(工事予定情報)

① 詳細を表示したい箇所をクリックする。

② 工事予定情報（工事開始日・終了日、工事場所等）を表示。

※ 紫線の実線…工事中、紫線の点線…工事前、
赤線の実線…通行制限中、赤線の点線…通行制限予定

Toyama Smart City Square 表示イメージ(消防車両出動情報)

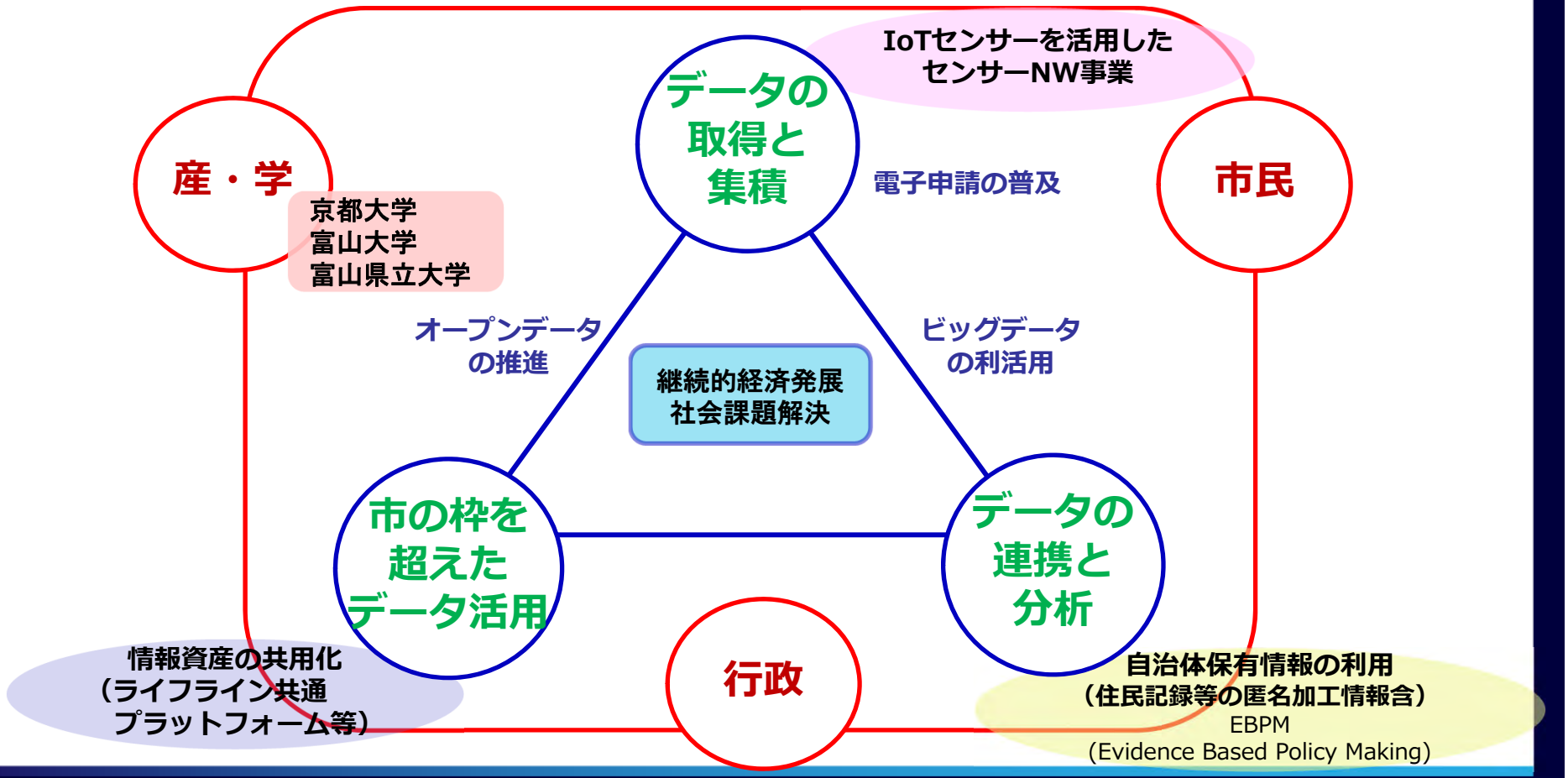
① 詳細を表示したい箇所をクリックする。

② 消防車両出動情報（災害種別・状態等）を表示。

※ 赤のエリア表示…発生中、青のエリア表示…活動終了

富山市におけるスマートシティ事業の推進形態

1. IoT技術や内部事務のデジタル化に伴う電子申請の普及による新たなデータ取得方法の導入
2. 市保有情報や外部から収集したデータを活用した業務の効率化並びにビッグデータとして活用を推進
   （解析結果に基づいた施策立案・事業効果の検証＝ Evidence Based Policy Making ）
3. 連携・集約された産学官の様々なデータをオープン化し、データの相互利用による新サービスの創造
4. 継続的な経済発展と今後発生するものも含めた社会課題の解決



高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

＜高齢者健康増進端末機「おでかけっち」の製作＞

・GPS、歩数計測機能、歩行促進アプリを内蔵した小型端末機「おでかけっち」を、京都大学を中心としたコンソーシアムと共同開発し2，000個製作（平成27年度地域再生戦略交付金を活用）

・端末機「おでかけっち」を高齢者等に携帯してもらい、交通行動やまちなかでの移動目的等を分析

・GIS（地理情報システム）や公共交通ICカード、各種統計データと組み合わせることで、都市・交通・健康・福祉など他分野の施策立案に活用

「おでかけっち」の概要

・縦68mm×横49mm×厚さ12mm、重さは約50g

・GPS、歩数計測、歩行促進アプリを内蔵したツールを開発

・高齢者でも持ち歩きやすいポケットサイズ

【「おでかけっち」で取得できるデータ】

・GPSデータ
（位置情報データ：
10秒ごとの緯度・経度、時間）

・歩数データ（歩数、時間）

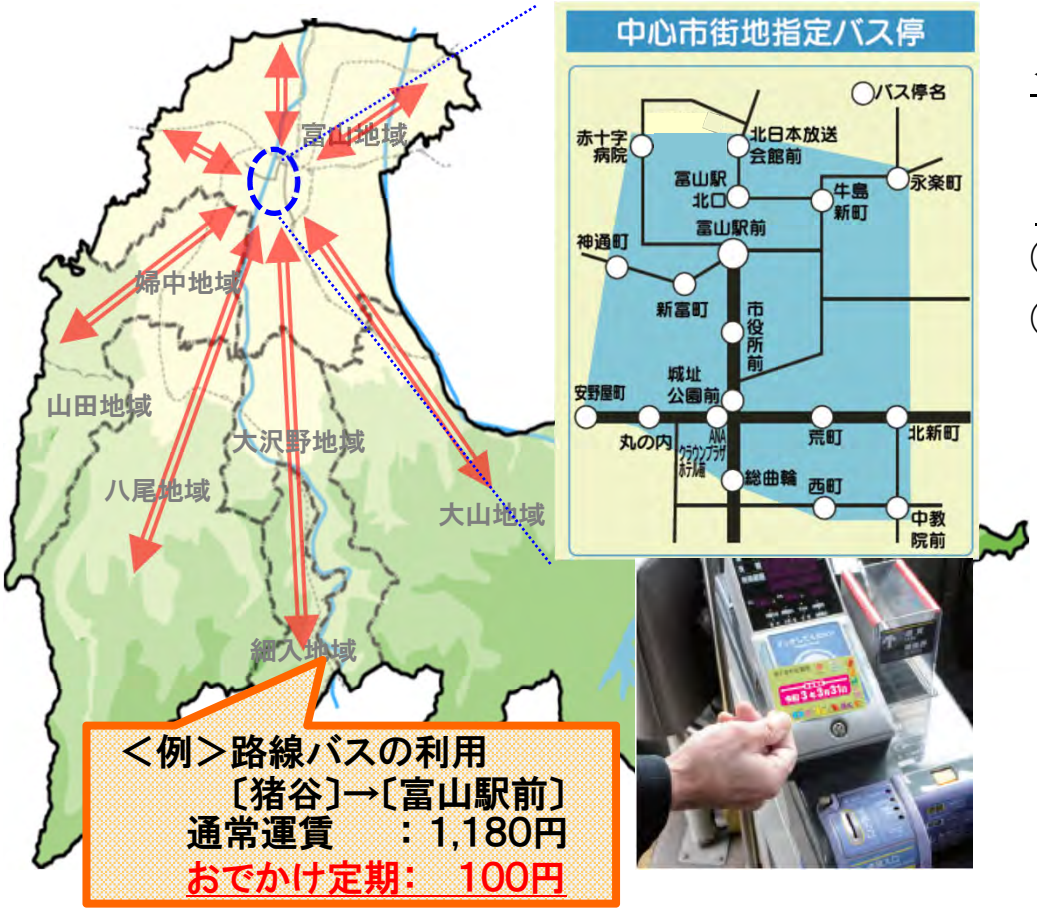
・健康状態の回答データ
（1良好、2まあまあ、3よくない）

など

（再掲）おでかけ定期券事業

交通事業者と連携し、富山市内在住の65歳以上の高齢者を対象に**市内各地から中心市街地へ出かける際に公共交通機関を1乗車100円**で利用できる制度を実施
高齢者の**約24%**がおでかけ定期券を所有し、**1日あたり約2,750回、約1,400人**が利用
（H29～R元年度平均）

高齢者の外出機会の創出、中心市街地の活性化、公共交通の維持・活性化に寄与



＜例＞路線バスの利用
〔猪谷〕→〔富山駅前〕
通常運賃　：1,180円
おでかけ定期：　100円

＜おでかけ定期券の申込み＞
65歳以上の方、利用者負担金1,000円

＜おでかけ定期券の利用＞
①利用時間帯：午前9時～午後5時
②利用区間

〔路線バス〕（H16. 5～）

富山市内各地	⇔	中心市街地等の区間
中心市街地等	⇔	中心市街地等の区間
富山市内各地	⇔	富山市民病院の区間

〔地鉄電車〕（H20. 4～）

富山市内各駅	⇔	電鉄富山駅 南富山駅

〔市内電車・富山港線・環状線〕（H23. 4～）
〔フィーダーバス〕（H23. 4～）
〔まいどはやバス〕（R3. 4～）

高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

■高齢者交通行動調査【パネル調査】

1.調査目的

28年度の調査協力者のうち同意を得た協力者を対象に、再度調査・分析を行うことで「おでかけ定期券の所有、非所有による経年変化を分析し、おでかけ定期券の効果を検証する、また国民健康保険加入者、後期高齢者医療制度対象者の実際の医療費と交通行動の相関の把握を目的とする。

2.調査概要

(1)調査対象者

28年度の調査協力者1,183名のうち、同意を得た644名

(2)調査日時

平成30年9月28日～10月12日（「おでかけっち」携帯期間）

(3)調査方法

28年度の調査協力者のうち同意者に「おでかけっち」を携帯してもらいデータを取得、また医療費の提供を受ける。

(4)分析方法

以下のことについて、経年変化の分析を行う。

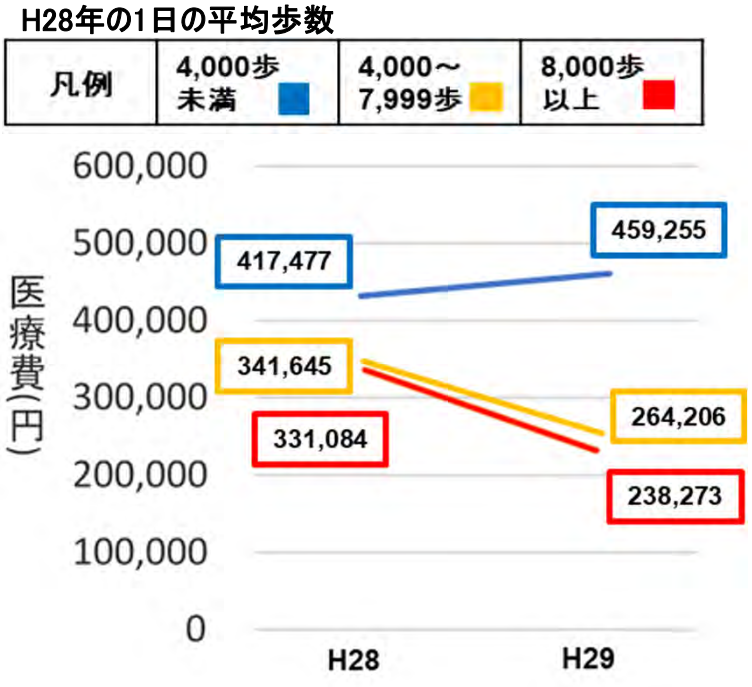
①おでかけ定期券の所有及び使用と平均歩数
②－１歩数と医療費（前期高齢者）、②－２歩数と医療費（後期高齢者）
③おでかけ定期券所有別医療費

高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

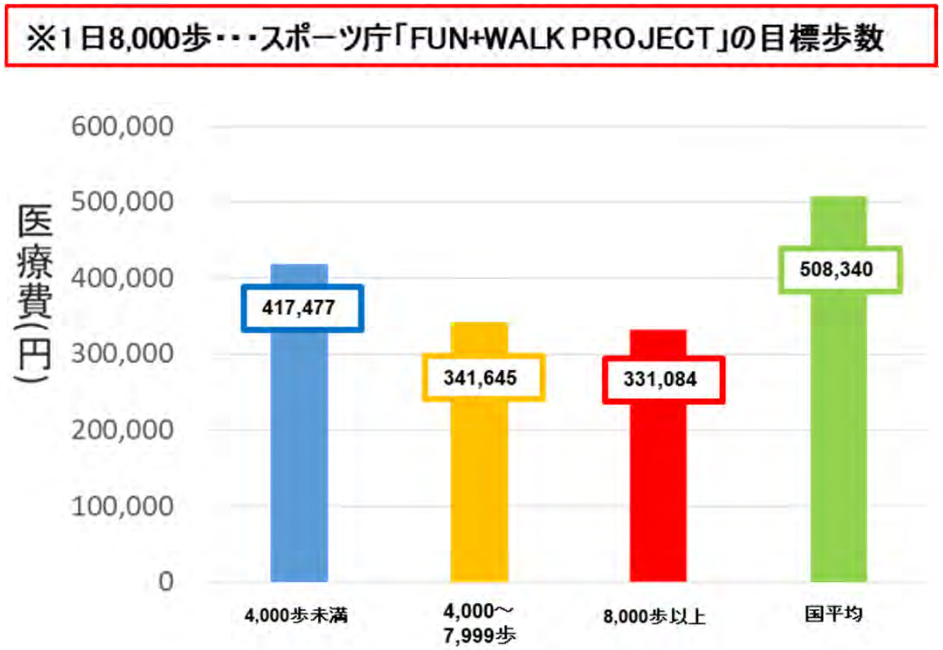
■高齢者行動調査【パネル調査】

3.分析結果　①歩数と医療費（前期高齢者）

- 28年度から29年度にかけて、28年の1日の歩数が4,000歩未満の人の平均医療費が上昇しているのに対し、**4,000～7,999歩および8,000歩以上の人の平均医療費は減少**している。【図10参照】
- また、**国の前期高齢者平均医療費よりも少なく**なっている。【図11参照】



【図10】H28年度の1日平均歩数とH28、29年度平均医療費
（前期高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし）



【図11】H28年度歩数別平均医療費とH28年度国の
前期高齢者（国保加入者）平均医療費の比較

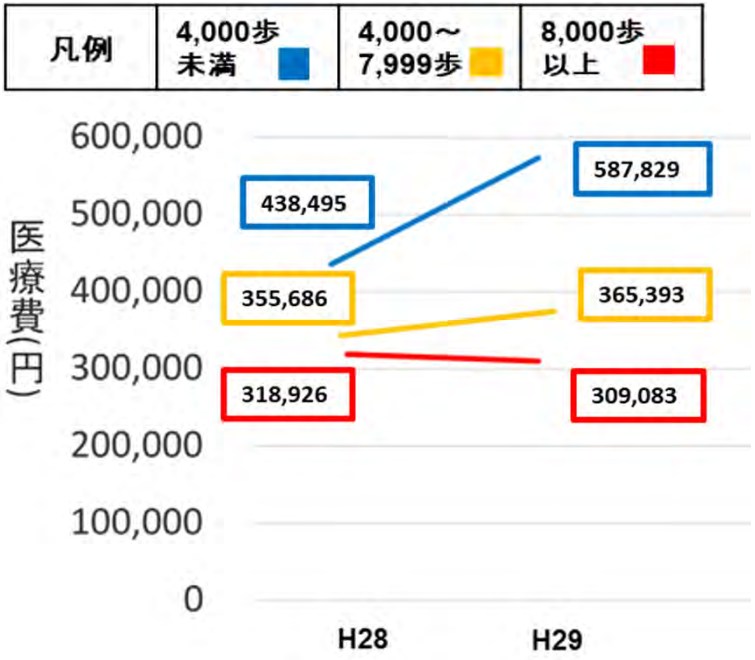
高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

■高齢者行動調査【パネル調査】

3.分析結果　②歩数と医療費（後期高齢者）

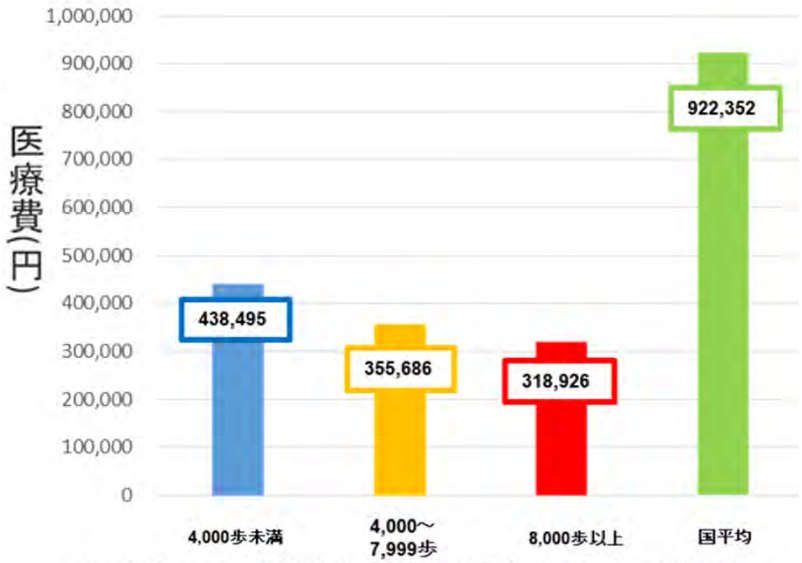
- 28年度から29年度にかけて、1日の平均歩数が4,000歩未満および4,000～7,999歩の人の平均医療費が上昇しているのに対し、**8,000歩以上の人の平均医療費は減少**している。【図12参照】
- また、**国の後期高齢者平均医療費よりも大幅に少なく**なっている。【図13参照】

H28年の1日の平均歩数



【図12】H28年度の1日平均歩数とH28、29年度平均医療費
（後期高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし）

※1日8,000歩・・・スポーツ庁「FUN+WALK PROJECT」の目標歩数



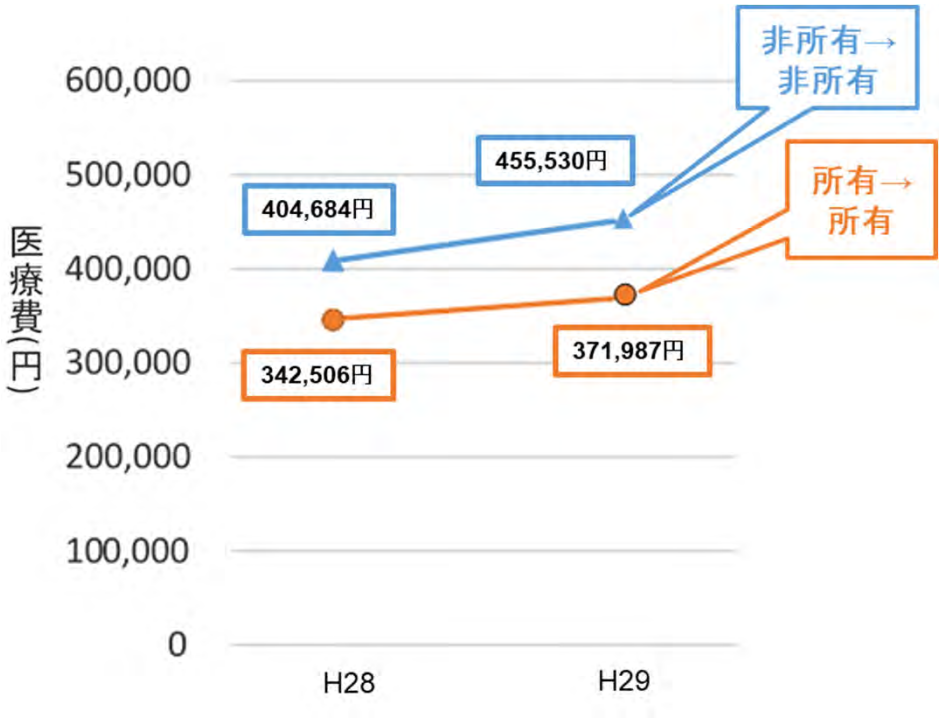
【図13】H28年度歩数別平均医療費とH28年度国の後期高齢者医療制度対象者の平均医療費の比較

高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果

■高齢者行動調査【パネル調査】

3.分析結果　③「おでかけ定期券」所有別医療費

・28年から29年にかけて、「おでかけ定期券」を継続して所有していた人は所有していなかった人よりも医療費が少ない。【図14参照】



【図14】「おでかけ定期券」所有別H28、29年度平均医療費
（全高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし）

【参考】「おでかけ定期券」の医療費の削減効果

年間1人あたり医療費の差
72,860円(28,29年平均)

×

「おでかけ定期券」の所有者
24,972人(30年度末)

↓

医療費の削減効果
約18億2千万円

【参考】おでかけ定期券の利用と歩数と医療費の相関

■高齢者行動調査【パネル調査】　サンプル数　356

3.分析結果　④歩数区分別・「おでかけ定期券」利用頻度別医療費(H28、29)

歩数・利用頻度	利用年24日(月2日)以上		利用年24日(月2日)未満		差
	サンプル(人)	医療費(円)	サンプル(人)	医療費(円)	
4,000歩未満	29	469,396	157	499,574 A	30,178
4,000～7,999歩	26	346,111	92	371,567	25,456
8,000歩以上	9　C	306,173 B	43	367,732	61,559

A－B＝193,401円←一人当たりの差　D

おでかけ定期券運賃補填
102,156千円(H31予算)　／　D　＝　528人

528人が8,000歩以上歩き、月2回以上利用すると補填に見合う額となる

おでかけ定期券所有者全体で換算すると、

C　／　356人(サンプル全体)　×　おでかけ定期券所有者 24,972人(H30末)　＝　631人

おでかけ定期券運賃補填以上に医療費抑制効果がある

おしまい